

(参考資料) 東京都恩賜上野動物園でのオガサワラオオコウモリの展示開始について

東京都建設局公園緑地部
(公財) 東京動物園協会

1 経緯

東京都恩賜上野動物園では、オガサワラオオコウモリ保護増殖計画第3 4 「傷病保護個体の救護等」における普及啓発に活用することを目的として傷病保護個体を展示することとした。

この個体は傷病個体として2020年11月12日に保護され、同年11月18日に当園へ搬入、治療した後に、西園「小獣館」バックヤードにて飼育していた個体である。飛翔能力は無く野生復帰は困難であるが経過良好であることから、環境省との協議の上、上野動物園に本個体を譲受け（所有権を伴う個体の譲受け）、小獣館内で展示を開始する予定である。

上記個体以外にも、2021年8月12日と9月20日に小笠原から傷病保護個体2頭を預かり、治療した。2021年8月12日に預かった個体はMRSAが検出され、他個体への蔓延防止のため2023年5月19日に安楽死処置し、死体は環境省に返却した。9月20日に受け入れた個体は循環不全により同年12月20日死亡した。

なお、上野動物園では、文化庁小笠原調査団が1969年7月16日に母島の沖港近くで捕獲したオス1頭を同年7月26日に受け入れ、1980年7月6日に多摩動物公園に所属換するまで、10年11か月間飼育した記録がある。

2 展示内容

- ・場所：上野動物園西園小獣館1Fで展示予定（別紙参照）

既存施設内に仕切りを設け、隣接するオリオオコウモリと比較展示を行う。

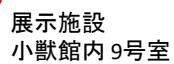
- ・開始時期：飼育予定エリアの改修作業が終了後を予定。

3 教育普及内容

小笠原諸島で唯一の固有哺乳類である本種の展示を通じ、小笠原諸島の自然生態系の希少性や重要性、本種が個体数を減らしてきた経緯、その後の行政機関及び地域関係者の協力により行われている保護活動などについて、来園者等への理解促進を図ると共に、種の保存の意義をわかりやすく教育・普及する。

普及活動の一例として、来園者に対して、本種を含むオオコウモリ類の生態や歴史、保護活動の内容などを飼育員が解説するキーパーズトークを月3～4回実施する事などを想定している。

展示場所



施設写真 (小獣館内 9 号室)

